

今回のテーマ

私の好きな映画

伊勢真一監督の「風のかたち」という映画が心に残っています。小児がんやその経験者たちが精いっぱい生きている姿に心打たれます。「いろいろな人に助けてもらったから、今度は自分が人を助けたい」という言葉に人の優しさ、強さを感じました。

文教大学卒業／大島泰子さん

「ビッグ・フィッシュ」という映画が好きです。つらいことも面白おかしく話せば、人生は楽しいことだらけになるということを教えてもらいました。私のパイルの映画です。

文教大学卒業／野中大樹さん

おすすめ映画は「あまろっく」です。私の住む町が舞台ということもありますが、自分らしく生きるを応援してくれる映画です。下町風の人情が残る城下町尼崎の魅力をぜひたくさんの方に知って欲しいです。

文教大学卒業／あまびよんさん

「君の薔薇をたべたい」です。何度見ても何回も涙があふれる。不思議だけど、ストレス発散でパッと泣きたい時には見えています。

文教大学卒業／ももさん

劇場版「ゆるキャン△」。女子高生によるキャンプや日常を描いた漫画作品の映画で、原作から10年後の様子を描いています。高校時代と変わらぬ点もありながら、キャンプ場作りに励む彼女たちの姿に感動しました。

文教大学卒業／りくちゃんさん

「スター・ウォーズ」シリーズ。学園祭で仲間とコスプレしたっけな。

文教大学卒業／くまさん

私が好きな映画は「サマーウォーズ」です。1人でできないことも、みんなで協力すればできる。しかし、その中で自分が何ができるのかを探し、努力し続けることが大切だと気付かされました。この作品を見ないと夏は始まりません。

文教大学卒業／ジャンヴルさん

「バック・トゥ・ザ・フューチャー」です。越谷で過ごした大学時代にデロリアンで戻って、恩師や仲間、昔の自分に会って未来の近況報告してみたいです。

文教大学卒業／飯村文人さん

素敵な野球ファンタジーの「フィールド・オブ・ドリームス」と、イタリアの郷愁を感じる「ニューシネマパラダイス」が大好きです。どちらも音楽がとても効果的で共感をうまく誘う映画で、いつ観ても世界観に入り込めます。

文教大学卒業／りきさん

私の好きな映画は「カリートの道」です。アルパチーノの一番カッコ良かった時期の感動の映画です。

文教大学短期大学部卒業／Vivaceさん

先日見た映画です。「医師 中村哲の仕事、働くということ」アフガニスタンとパキスタンで病や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々のために、35年にわたり活動を続けた人のドキュメンタリー。

文教大学卒業／高橋宏栄さん

「E.T.」。アメリカに留学した時に、初めて観た映画です。字幕無しでもなんとなく分かり、一緒だったホストファミリーと笑ったり泣いたりしました。「E.T. phone home.」と、自分の星を懐かしむE.T.に、日本から離れて間もない、英語もたどたどしい自分とを重ね合わせ、余計に感情移入しました。

文教大学女子短期大学部卒業／サニーさん

チャップリンの「街の灯」。ラストが感動です。

文教大学大学院卒業生

「温泉シャーク」。日本で初めてのサメ映画です。クラウドファンディングで製作されました。荒唐無稽でありながら、日本のこだわりも感じられるストーリー展開が良かったです。

文教大学在学生

「グッド・ウィル・ハンティング」。英語の映画シナリオを訳し、映画を見る。そんな大学生生活の英語授業が印象に残っています。

文教大学卒業生

「二百三高地」ですね。

文教大学卒業／ああさん

「(500)日のサマー」。とにかく恋がしたくなります。中学生・高校生・大学生みんな観てください！

文教大学付属高等学校卒業生

「ミッション：インポッシブル」シリーズ。スリルやドキドキ感が凄まじいです。

群馬背番号30さん

「サイダーハウス・ルール」。古い映画で、派手さはないけど、観た後ジーンと感動する映画です。内容は、主人公がさまざまな経験を通して成長していく物語。その中で、サイダーハウス(りんご農園)がでてきます。特に、孤児である主人公の親代わりの医師が、主人公に対する愛情が良い。さり気ないけど、深い愛情。優しい気持ちになる、良い映画です。

文教大学卒業／えみともさん

私の近況

現任校で進路指導主事として6年目になりました。生徒にとってベストな選択ができるように日々仕事に邁進しています。副校長が英文科卒業なので、職員室で越谷キャンパスの話で盛り上がっています。

文教大学卒業／社長さん

保育士から転職して病院の事務員として数年働いていましたが、ご縁があり、病院グループの保育園事務員へ異動となりました。文教大学で学んだ知識、保育士経験が活かされ、毎日充実しています。

文教大学卒業／まきさん

最近は酷暑が続き、家に引きこもってばかりの毎日です。そんな私ですが、先日、とある花火大会をYoutube上で見ました。クーラーの効いた部屋で家族と談笑しながら見る花火は最高でした。花火を見終わった後はアイスを食べました。心に残る夏の思い出ができました。

文教大学卒業／mさん

私は関西在住のオリックスバファローズファンです。日本シリーズや交流戦で神宮球場レフトフェンスの「育ての、文教。」を見るといつも学生時代を思い出します。あの看板だけはいつまでも残ってほしい。

文教大学卒業／増井一司さん

2024藍蓼祭に行きました。飾りの華やかさや学生の爽やかさに驚き、30年前との違いを家族に懐かしく話しながら、2Grまで歩いてしまいました。桜の頃にまた元荒川に癒やされに行きます！

文教大学卒業／Bunkyo7さん

小学校教員となって早くも三十数年が過ぎました。チャレンジ精神旺盛な私は、今夏、東京都の語学留学派遣研修生として1ヶ月間オーストラリアへ行かせていただきました。年齢関係なく新たな仲間ができ、多くの学びを得ることができました。まだまだ、いろいろと挑戦していきたいです。

文教大学卒業／大谷 浩一さん

アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました！

読者アンケート・投稿のお願い

『あやなり-Bunkyo Pride-』は、皆さまからの声をもとに制作しています。Webサイトからご意見をお寄せください。「文は人なり」の投稿もお待ちしております！

「文は人なり」次回のテーマ

在校生に読んでほしい

おすすめの本

～漫画・小説・実用書、何でもOKです～

近況や文教時代の思い出など、テーマ以外の投稿も大歓迎です！



お問合せはこちら

お問い合わせください！

同窓会告知、お手伝いします！

同窓会の告知など、校友会HPやメールマガジン等でご紹介したいことがありましたら、お気軽にご相談ください。お問い合わせは「あやなり-Bunkyo Pride-」ホームページのお問い合わせフォームよりお願いします。



あやなり

Bunkyo Pride

文教大学学園は2027年に創立100周年を迎えます

これまでも、これからも。



特集 全国の校友に会いに行く
in 栃木

表紙制作：藤掛 裕美さん

文教大学国際学部国際学科卒業

編集後記

文教大学学園に関わる“人”や“場所”を紹介する『あやなり-Bunkyo Pride-』2025年度号を発行する運びとなりました。特集「全国の校友に会いに行く!」では、栃木県を訪問。実際に訪れたことでその“場所”の魅力はもちろん、その土地での卒業生の活躍を肌で感じることができました。創立100周年ロゴマークの制作者である藤掛さんデザインの爽やかな表紙からはじまり、在校生・卒業生・恩師の魅力なお話をふんだんに掲載した2025年度号を、Webサイトと合わせてお楽しみください！

(理事長室 校友会担当 A.S.)

※送付先住所は、各校友団体の協力を得て最新のデータで送付しておりますが、旧住所や宛名間違い等がございましたらご寛恕ください。その場合はご連絡いただけますと幸いです。

あやなり-Bunkyo Pride-2025
文教大学学園広報誌

発行日：2025.7.23 発行：文教大学学園 編集：学園本部 理事長室 制作：文化工房
〒142-0064 東京都品川区旗の台3-2-17 TEL:03(3783)5511(代) FAX:03(3783)6109 E-mail:alumni@stf.bunkyo.ac.jp

INDEX

- p.2 学園理事長の挨拶
- p.4 特集・全国の校友に会いに行く
- p.8 文教人INTERVIEW
- p.10 文教百花
- p.12 CROSS TALKS
- p.13 恩師便り
- p.14 学園NEWS
- p.16 CAMPUS REPORT
- p.18 校友会の輪
- p.20 文は人なり

あやなり Bunkyo Pride

文教大学学園広報誌

文教大学学園の在校生や保護者、卒業生など、

「文教人」の皆さまにお送りする広報誌、『あやなり-Bunkyo Pride-』。

文教大学学園の各校の情報や、文教人へのインタビューなどをお届けします。

「あや（文＝文教）は人なり」という思いを込めて、

そして Bunkyo Pride は、皆さまが文教人であることに

誇りを感じていただけるように。

そんなメッセージが伝わる冊子を目指しました。

この一冊が、人と人、人と学園をつなぐ場であればと願っています。

あやなり-Bunkyo Pride-をお届けします

『あやなり-Bunkyo Pride-』は、2022年度にリニューアルをし、在校生、保護者、卒業生など様々な「文教人」の皆さまに学園の情報を伝える広報誌となりました。

今号の表紙は、「文教大学学園創立100周年記念ロゴマーク」募集で最優秀賞を受賞され、グラフィックデザイナーとして活躍する国際学部の卒業生の作品です。文教大学学園の「いままでの100年」と「これからの100年」を、「サイダー」と「ソーダ」で表現した爽やかな表紙をお楽しみください。

誌面ではそれぞれに活躍する在校生、卒業生、恩師のご活躍を紹介しております。

今年度からは特集として「全国の校友に会いに行く!」をテーマに、全国各地の校友に取材をしていく所存です。第一段となる今回は、栃木県にスポットをあて、佐野市で行政から栃木県を盛り上げるべく奮闘してい

る卒業生や足利市の社会福祉法人でワイナリーを営む卒業生の活躍を取材しました。

その他、今年9月に上映される映画「宝島」の原作者で直木賞作家の真藤順文さん（文学部卒業生）と学長・恩師との鼎談など、盛りだくさんの学園情報をお送りいたします。

文教大学学園は来たる2027年度に学園創立100周年を迎えます。100周年の節目へ向けて、またその先の100年に向けて、建学の精神であります「人間愛」を大切にしながら、皆さまに誇りに思ってもらえるような学園づくりに取り組んでまいりたいと考えております。これからも園児・児童・生徒・学生の学習環境を整え、よりよい教育の場を築いてまいります。今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは『あやなり-Bunkyo Pride-』をお楽しみください。

文教大学学園 理事長
野島 正也

文教大学学園 2025年5月1日現在

文教大学附属幼稚園

開設：1927年
園児数：148名
園長：中山 敦子



所在地：旗の台キャンパス
〒142-0064
東京都品川区旗の台3-2-17 Tel：03-3781-2798

文教大学附属小学校

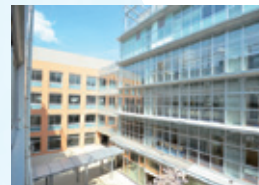
開設：1951年
児童数：325名
校長：島野 歩



所在地：石川台キャンパス
〒145-0065
東京都大田区東雪谷2-3-12 Tel：03-3720-1097

文教大学附属中学校・高等学校

[中学校]
開設：1947年
生徒数：446名
校長：神戸 航
[高等学校]
開設：1948年
生徒数：811名
校長：能村 英達



所在地：旗の台キャンパス
〒142-0064
東京都品川区旗の台3-2-17 Tel：03-3783-5511（代）

文教大学・大学院

開設：1966年
教育学部：1,663名
人間科学部：1,891名
文学部：1,544名
情報学部：1,271名
健康栄養学部：336名
国際学部：1,231名
経営学部：777名
大学院：90名
外国人留学生別科：17名
専攻科教育専攻科：1名
〈合計 8,821名〉
学長：宮武 利江



越谷キャンパス



湘南キャンパス



東京あだちキャンパス

所在地：
[越谷キャンパス]
〒343-8511
埼玉県越谷市南荻島3337
Tel：048-974-8811（代）

[湘南キャンパス]
〒253-8550
神奈川県茅ヶ崎市行谷1100 Tel：0467-53-2111（代）

[東京あだちキャンパス]
〒121-8577
東京都足立区花畑5-6-1 Tel：03-5686-8577（代）

文教

HOT Topics

文教大学学園公式LINE アカウントが完成しました!



学園情報をリアルタイムにお届けすべく、公式のLINEアカウントが完成しました。お友だち登録をいただくと、旬な卒業生の活躍やイベント情報をgetすることができます。校友メールマガジン「あやなりBPかわら版」や住所変更などの各種手続きも、LINEより変更可能です。ぜひお友だち登録をお願いします!

※「校友」とは、学園各校の在校（園）生・卒業（園）生 およびその保護者、現役・退職教職員の総称です。

LINEスタンプのプレゼント
計画中です!



こちらの
二次元バーコードより、
ぜひご登録ください!



『あやなり-Bunkyo Pride-』 アンケートにご協力ください!

今年度号のアンケートに回答していただいた方全員に『あやなりBP』2025年度号の表紙絵クリアファイルをプレゼントします! 「文は人なり」コーナーの投稿もこちらからお願いします! 次回のテーマは「在校生に読んでほしいおすすめの本」です。
※昨年度号より紙のアンケートを廃止し、アンケートはすべてWebサイトに統一しました。



回答者全員にBUNKOの
オリジナルクリアファイルを
プレゼント!



うれしいニュースを紹介します!!

須賀達郎さんの漫画

『ボールパークでつかまえて!』がアニメ化!!

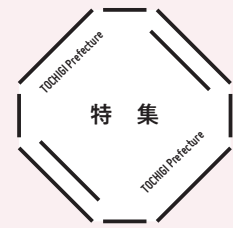
漫画家・須賀達郎さん（情報学部卒業生）の作品『ボールパークでつかまえて!』（講談社「モーニング!」にて連載中）が、今年4月末よりアニメ化され、テレ東系6局にて放送されました。オンライン配信など、詳しくは「ボールパークでつかまえて!公式サイト」をご覧ください!



アニメ公式
HPは
こちら



©須賀達郎・講談社／「ボールパークでつかまえて!」製作委員会

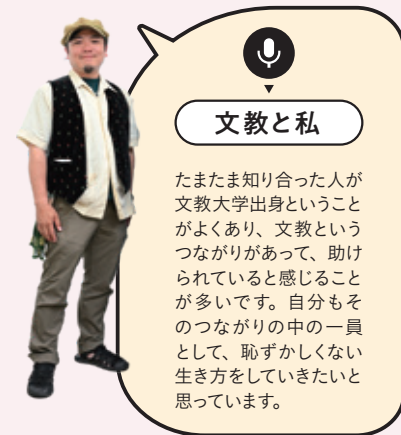


全国の校友に 会いに行く in 栃木

日本各地にいる卒業生を訪ね、地域に根ざした暮らしぶりを聞きながら、地元の魅力やおすすめの場所、おいしいものを紹介してもらった新企画です。第一弾は栃木県。校友のおすすめを巡って、栃木を放してみたいはいかがですか？



右は妻の有子さん。大学の同級生で学生時代からの交際を経て結婚



いけがみ たかし
池上 峻さん
有限会社ココ・ファーム・ワイナリー代表
文教大学人間科学部人間科学科 2004年卒業

祖父から引き継いだブドウ畑で、 誇りに思えるワイン造りを

1980年に開業したココ・ファーム・ワイナリーは、池上峻さんの祖父・川田昇氏が始めたワインの醸造場である。中学校の教師だった川田氏は、クラスの隅で小さくっていた知的障害者の子どもたちとできる作業を考え、1950年



山の急斜面に広がるブドウ畑

代に山の急斜面を開墾し、ブドウづくりを始めたと言う。初めは食用のブドウを栽培していたが、カリフォルニアから招いた醸造家の指導のもとワイン造りに転向し、ワイナリーは池上さんの母、そして池上さんと三代にわたって引き継がれている。

池上さんは「継ぐつもりはなかったのですが、学資を祖父に出してもらったので」と笑うが、実際には履歴書という紙切れ一枚から進んでいく就職活動に違和感を感じたことが大きかった。卒業と同時にワイナリーのある足利に戻る。

「ここは障害者支援施設『こころみ学園』が母体であり、ワイン造りもこころみ学園の園生たちが携わっています。最初はこころみ学園の職員として園生たちと一緒に暮らし、ブドウ畑へ出て農作業をすることが仕事でした。彼らと仕事するのは楽しかったですね。彼らには過去の憂いも未来の不安もない、ただ『今』に集

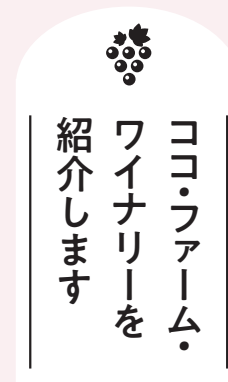


園生たちのていねいな作業がおいしいワイン造りにつながっている

中して生きているんです」

園生たちから教えられることは多く、彼らが誇りに思える仕事をつくり続けることを目指した祖父の意思を引き継ごうと思うようになった。

大学時代は「あまり向学心のない学生でした」と言うが、ゼミの角田巖先生が説いた「遊び」の文化性や精神性は、園生たちとの関わりや仕事の中でよく思い出す。また仲の良いクラスで、妻はクラスメイト。大学を畑に喩えるなら、「精神的な支えとなっている友人たちを得ることができたことが一番の収穫」である。



ブドウ畑に面した カフェ併設のショップも

ワイナリーの敷地内にはブドウ畑に面したショップがあり、自家製のワインが購入できるほか、こころみ学園で作っている原木栽培しいたけ、ワインの関連グッズなども販売。併設のカフェでは、ブドウ畑を眺めながらワインや軽食、昼食を味わうことができるほか、ワインのテイスティングやワイナリー見学も楽しめます。



ブドウ畑を見渡すカフェのテラス席



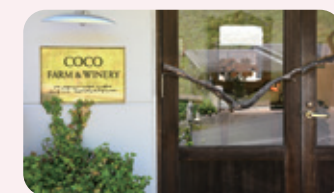
①足利マール牛などの地元の食材や、季節の食材で作る料理をワインとともに味わえる
②ショップには、自家製ワインやおつまみが並び
③毎年11月に開催される収穫祭



オーク樽に詰められたワインが眠る貯蔵庫は、ブドウ畑の反対側の山の岩盤をくり抜いて作った。30度を超す夏の猛暑日でもワインの保存に適した12～15度を保つ。ワイナリー見学では貯蔵庫へも案内してくれる



④スパークリングワインや赤ワインなど、ワインの種類が豊富
⑤自家畑の若摘みブドウを使用した飲むお酢「ベルジュ風＊葡萄酢」、原木しいたけを使った「椎茸スープ カブチーノ仕上げ」は おみやげに人気

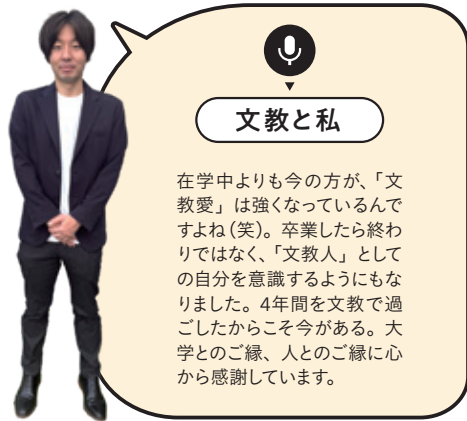


ココ・ファーム・ワイナリー

〒 栃木県足利市田島町611
☎ 0284-42-1194
③ショップ10:00～18:00
カフェ11:00～16:00(土日祝日～17:00)
⑥基本無休(詳しくはHPをご覧ください)



にのみや かず や
二宮 和也さん
佐野市広報ブランド
推進課主査
文学部中国語中国文学
科 2011年卒業



文教と私

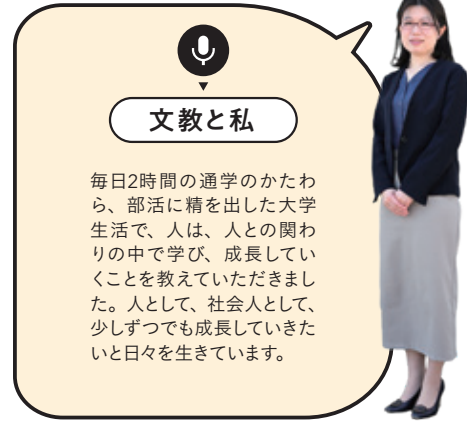
在学中よりも今の方が、「文教愛」は強くなっているんですよ(笑)。卒業したら終わりではなく、「文教人」としての自分を意識するようになりました。4年間を文教で過ごしたからこそ今がある。大学とのご縁、人のご縁に心から感謝しています。

国際学部清水麻帆ゼミと連携し、佐野市の新ご当地グルメを開発

「佐野らーめんソフト」「耳うどんおしろこ」「ハラルメニュー(ビタパン&ポタージュ)」「梨ジェラート」。これらはすべて、文教大学国際学部の清水麻帆ゼミと佐野市観光協会の協働で開発されたご当地グルメである。2022年から始まったこのプロジェクトを最初に担当したのが、当時同協会の職員だった二宮和也さん。佐野市から出向という形で着任したばかりで、「佐野市の観光を盛り上げるためには何ができるだろうか」と模索していたタイミングで声がかかった。「別の案件でつながっていた文教大学の職員の

方から『文化資源の開発や地域活性化をテーマに活動している清水先生が、連携できる自治体を探している』というお話をいただきました。そこから始まったのがこのプロジェクトです」名物の佐野ラーメンをイメージしたソフトクリーム、伝統食である耳うどんを使った甘味、地元食材を使ったハラルメニュー開発など、学生たちのアイデアには、「思いがけない視点や発想があり、いつも驚かされていました」と二宮さん。一方で、奇抜に思える提案でもマーケティングに裏打ちされた根拠に基づいてお

り、説得力があった。また学生たちの話を聞くと市内事業者さまも刺激を受け、「いいよ」の一言で快く協力してくれる。商品開発だけではない、地域づくりとしての相乗効果が上がっていたと二宮さんは話す。母校と共に産官学の連携を成功させたことに大きな手応えを感じつつ、卒業してからも文教大学というつながりの中にいることに「文教大学に進学してよかった。今がそれを一番実感しています」と笑う。



文教と私

毎日2時間の通学のかたわら、部活に精を出した大学生活で、人は、人との関わりの中で学び、成長していくことを教えていただきました。人として、社会人として、少しずつでも成長していきたいと日々を生きています。

なかじま さ き
中嶋 佐季さん
佐野市観光推進課主査
人間科学部臨床心理学
科 2012年卒業



地域の賑わい創出のため、母校と佐野市を橋渡し

中嶋佐季さんは、昨年度まで佐野市観光協会に所属し、二宮さん(6ページ参照)のあとを引き継ぐ形で、清水ゼミの学生たちと商品開発に携わってきた。その中の一つが「いちごの果実酒」。佐野市では古くから酒造りも行われており、市内の蔵元と特産のイチゴを使ったお酒は、「BUNKYO校友フェスタ2024」に試飲販売という形で出展し、多くの反響を得た。「自分たちが作った商品の反応を目の前で感じられるのは、貴重な体験でした。普段は

あまりアルコールを召し上がらないという方からも好評をいただき、学生たちも手応えを感じていました。こうした機会をくださった教職員の方たちには、感謝しかありません。また噂に聞いていた東京あだちキャンパスにも初めて訪れることができ、母校の発展を大変誇りに思いました」今、学生たちは後任の職員と佐野市を盛り上げようと、次の課題に向かっていこうという。こうした柔軟な発想を取り入れたいと、中嶋さん

自身も次の段階へと気持ちに向かっていく。中嶋さんはもともとカウンセラーになりたいと、臨床心理学科に進学。何かしらの形で、人の役に立ちたいという気持ちから公務員を目指すようになった。市職員としての仕事はこれまでに福祉、医療、教育、観光の部署に配属になり、その時々で「お役に立てることをする」ことを目標としてきたが、母校と佐野市の橋渡しをすることができたことを「とてもうれしく感じています」と話す。

栃木に行ったら立ち寄りたい

足利市

史跡足利学校

現存する日本最古の学校

1921年に国の史跡、2015年に日本遺産に認定された日本で最も古い学校。創建については、奈良、平安、鎌倉時代と諸説があるが、明治維新後の廃校に至るまで、多くの入学者の学舎となった。キリスト教宣教師のフランシスコ・ザビエルが海外に紹介したことも知られている。



瓦屋根が立派な「学校門」
〒栃木県足利市昌平町2338
☎0284-41-2655

◎9:00～16:30(10月～3月は～16:00) ◎第3水曜
◎参観料一般480円、高校生240円、小中学生120円



中国の明の時代の古廟の様式を模した「大成殿」は、孔子と小野篁を祀っている

足利市

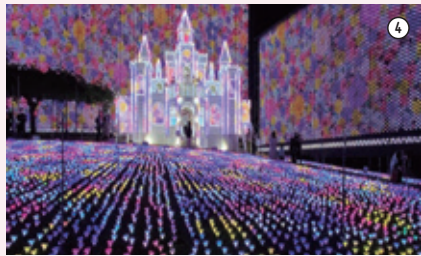
あしががフラワーパーク

栃木県天然記念物の大藤が見事

約10万平方メートルもの広大な敷地は四季折々の花々で美しく彩られ、1年を通して国内外の来園者の目を楽しませてくれる。特に春は600量敷きの藤棚を持つ大藤や、長さ80メートルもの白藤のトンネルなど、350本以上の藤の花が咲き誇る。



③ライトアップされた大藤棚は圧巻の美しさ ④パーク内の「光の花の庭」は日本三大イルミネーションのひとつ ⑤名物の「藤ソフト」



〒栃木県足利市迫間町607
☎0284-91-4939

◎10:00～17:00(季節によって変動あり) ◎無休
◎入園料400円～2300円(花の咲き具合により料金が変動)

佐野市

佐野厄よけ大師

関東の三大師のひとつ

944年に奈良の僧侶が開いた天台宗の名刹。厄除けや方位除けのご利益で知られ、年間を通して多くの人が参詣に訪れる。周辺には昔懐かしい佇まいを残す和菓子屋や飲食店が点在。

〒栃木県佐野市金井上町2233 ☎0283-22-5229
◎8:20～16:40 ◎無休



お正月には数十万の人が訪れる国内屈指の初詣スポット

ASHIKAGA

SANO

校友のおすすめスポット

佐野市

佐野市観光物産会館

佐野のおみやげが勢ぞろい

佐野厄よけ大師入口正面にある佐野市最大級の品揃えを誇る物産館。市内の観光パンフレットを多く揃え、観光の拠点にもなっている。



〒栃木県佐野市金井上町2519 ☎0283-21-5111
◎9:00～18:00 ◎無休



①約800品のおみやげが並ぶ ②佐野らーめんなどのご当地グルメが充実

佐野市

佐野プレミアム・アウトレット

国内外の人気ブランドが約180店舗

高級ファッションブランドからスポーツ&アウトドア、生活雑貨まで揃う関東最大級の巨大アウトレットモール。アメリカンスタイルのハンバーガーショップなど、飲食店も充実。

〒栃木県佐野市越名町2058
◎ショップ・フードコート10:00～20:00
レストラン11:00～21:00

※季節等により変動あり。年1回(2月)に定休日あり。最新情報は公式HPを確認 ◎無休



③アメリカ東海岸の街をイメージしている ④東側に雄大な山並みを望む



文教人

INTERVIEW

幼稚園から大学院まで擁する文教大学学園。
在校生は約1万人、卒業生は14万人を超えます。
さまざまな分野で活躍する「文教人」たちの「文教魂」に迫ります。

卒業生



YUMI FUJIKAKE

文教に通う在校生、働く教職員、 みんなが輝く未来へ願いを込めて

普通の感覚を大切に デザインする

学園創立100周年を記念するロゴマークの募集事業で、スタイリッシュなロゴを作成して最優秀賞を獲得した藤掛裕美さん。「ロゴのコンセプトは？」の問いに「キラキラです」と即答。「キラキラした輝く未来に向かうイメージで、星をデザインして入れました。この星には『プラス』の意味もあり、学生さんたちが経験をプラスしていくことで、将来、星

のように輝いてほしいという願いも込めています」

本業はグラフィックデザイナー。これまで大手の広告代理店なども参加するコンペで、名だたる企業のロゴやポスターなどを受注してきた。広告の世界には美大出身者や美術を専門に学んだような人が多数いる中で、藤掛さんはむしろ「普通」であることを強みにする。「選ぶ人たちは一般の方が多くいわけですから、自分の『普通』の感覚でつくれば、クライアントの心に響くと思っています」

今の自分があるのは 文教のおかげ

藤掛さんが国際学部を卒業して最初に就職した先は、語学の教材を扱う出版社。その広報部に所属して、新刊の案内や広告づくりに関わった。当時の担当デザイナーがMacでデザインするのを見て「自分もできるかも」と、一念発起して退職。スクールでスキルを身につけ、グラフィックデザイナーとなり、現在所属する会社にデザイナーとして入社した。

藤掛 裕美さん

【現職】株式会社ウィルコミュニケーションズ グラフィックデザイナー
【卒業年】文教大学国際学部国際学科
1995年卒業

「今思えば、国際学部を卒業していたから語学系の出版社に採用していただけたのだと思っています。今の仕事に就くきっかけを与えていただけたことに感謝しています。自分の気持ちに正直に、そして前向きに。藤掛さんはこれからも、多くの人が身近に感じるようなデザインで、共感を呼ぶ作品をつくり続けていく。」



わたしの文教魂 感謝

当たり前にあるものと思っていたことが、いろいろな人の手で支えられていることに大学時代に気づくことができました。気づけたことも含めてすべてに感謝しています。

卒業生



RYOICHI SUZUKI

わたしの文教魂 和

小学校時代から変わらないのが、「みんなと一緒に生きていこう」という気持ちです。「和する」とは、楽しく生きること。人生のもっとも大切な目的だと考えています。

75歳を超えてなお エネルギーに走る実業家

早稲田大学法学部を卒業後、生命保険会社の営業マンとして日本各地を駆け巡った鈴木さん。50歳で早期退職すると、52歳で株式会社グッドワンを創業し、介護業界に参入。介護サービスグループ「にじの里」の礎を築き上げた。事業が軌道にのると、次は大学時代の友人とともにオーストラリアで起業。帰国後は北海道ニセコ町でのホテ

ル開業、海外の不動産賃貸業など、国内外で幅広い事業を展開してきた。これまでにさまざまな事業を手掛けてきた鈴木さんだが、なかでも生まれ育った溝の口を中心に展開してきた介護事業は、リハビリ型のデイサービスを中心とし、100人以上の従業員を抱える規模に成長。会長に退いた現在も、職員らに慕われている。

鈴木良一さん

【現職】株式会社J.LODGING
代表取締役会長
【卒業年】立正学園溝の口小学校
1960年卒業

「介護の従業員のみなさんは優しい方ばかりで、熱心に仕事に取り組んでくれています。私もみなさんの優しさに守られて生きています」
先祖代々暮らした溝の口。この土地に根差した温かい人々と心のつながりが、活力の源となっている。

卒業生



KAYOKO MIZUSHIMA

わたしの文教魂 友情

高校時代の友だちには助けられた場面がたくさんあります。いつもそばにいる関係ではないけれど、必要な時にはそっと寄り添ってくれる。その友情がどれだけありがたいか、年を重ねるごとに実感しています。

気づけば、そばに寄り添ってくれる そんな友情を紡いだ高校時代

多くの卒園生たちから「先生」と慕われ、今では、大人になった元園児たちとお酒を飲みに行く機会も多いという水品佳代子さん。今年3月に付属幼稚園を定年退職し、4月からは非常勤教員として勤務。園児たちと関わる日々は変わらないが、「明るい時間に家に帰ることができるようになって幸せ」と笑う。

水品さんは幼稚園教諭になることを目指して、文教大学付属高等学校へ進学。母親からは「女の人も手に職をつけておきなよ」と常日頃から言われていたため、付属高校から短期大学部児童科へと進もうと考えたのである。
「目標はありましたが、まったく勉強はしませんでしたね(笑)。とにかく友だちと過

水品 佳代子さん

【現職】文教大学付属幼稚園非常勤教員
【卒業年】文教大学付属高等学校 1978年卒業
文教大学女子短期大学部 1980年卒業

ごす毎日が楽しくて、今でも当時の友だちとは年に1回は必ず旅行に行く仲です」
仕事と母の介護で大変な時も病院へ行ってくれたり、デイサービスへ送り出してくれたのも高校時代の友人だった。気づけばそばに寄り添っていてくれる。そんな友情を紡いだ高校時代だったのである。

文教百花

学業で、課外活動で、
仕事で、趣味で…
重ねてきた努力が実りました。

(注) スポーツ・学術優秀功績者表彰制度
学校法人文教大学学園が主催。スポーツ、文化、芸術などの広い分野で学園の
名を全国的に広め、顕著な功績を挙げた個人や団体を毎年表彰する。

南極のことなら何でも知る“南極博士”

お台場の船の科学館前に係留されている
日本初の南極観測船「宗谷」。小出陸人さん
は、保育園の時に見学した際に、船長さんか
ら聞いた話に魅せられて以来、南極に夢中。
3代目南極観測船「しらせ」の模型作りや、自

作の新聞制作にも取り組むほどです。
そのあまりの知識の広さに驚いた人から、
「南極クラス」という南極観測隊参加経験
者が行う出張授業を紹介してもらった陸人さん。
校長先生に直談判して小学校で「南極
クラス」を開催することとなりました。昨年行

われた「南極クラス」では、南極の厳しい自
然環境を知るために風速60mもの風を体感
したり、軽くて暖かな越冬服実際に着てみ
たり、南極に生きる動物たちの様子を教わ
るなどしました。今年も「南極クラス」を開
催予定で、陸人さんも楽しみにしています。

“南極博士”



将来の夢は南極観測隊員
になることです

小出 陸人さん
Rikuto Koide

文教大学附属小学校4年



掲載のポイント

小学校に「南極クラス」の 出張授業を招致

南極に関する知識の豊富さが各所で知られてい
る“南極博士”。観測隊員が暮らす建物づくりに
関わるミサワホームが開催する「南極クラス」を
小学校に呼ぶことを実現させた。

やさしく豊かな文教サウンドを目指して

越谷文化会の文教大学吹奏楽部は全日
本吹奏楽コンクール全国大会の常連校であ
り、大会出場30回のうち21回金賞を受賞し
ています。「金賞を3回取ったら1回休みとい

うルールがあったので、それがなかったら
もっと記録を伸ばせたかもしれない」と笑う
のは、その輝く栄光へと導いた常任指揮者
である佐川聖二先生です。1989年からそ
の任に就かれ、「佐川先生の指導を受けたい
」と、文教大学に入学してくる学生も少な

くありません。
37年にわたる指導で一貫しているのは、
やさしく、豊かな厚みのある音色をつくるこ
と。そのためには「奏者が楽しんで演奏する」
ことを推奨し、音楽は小手先の技術ではなく、
「人の心に届けるもの」だとおっしゃいます。

2024年度スポーツ・学術優秀功績者(注) 文教大学吹奏楽部



演奏はリラックスすることが大切。
そのためにはまずは笑おう!

佐川 聖二先生
Seiji Sagawa

文教大学吹奏楽部
常任指揮者



表彰のポイント

全日本吹奏楽コンクール 21回金賞受賞

1940年から始まり、日本の吹奏楽界にとって、もっ
とも大きなコンクールとして定着している全日本吹奏楽
コンクール。近年は、全国大会のチケットが入手困
難になるほど人気がある。金賞21回の受賞は、神
奈川大学吹奏楽部に次ぐ2位。

2種のカヌー競技で日本代表として活躍

カヌー競技と言えば、リオデジャネイロオ
リンピックでメダル獲得となった「スラローム」
種目が知られていますが、他にもたくさんの
種類のカヌー競技があります。山木里桜さん
は、10～30 kmの長い距離で速さを競う「カ
ヌーマラソン」のジュニアの部で、WK-2 (2

人乗り) の日本代表として2024年の世界選
手権大会に出場を果たしました。また2025
年5月に開催されたアジア選手権では、短距
離の「カヌースプリント」にも日本代表として
出場。2つの種目で活躍中です。

学業もある中で、ハードな練習を続ける
山木さん。将来は「スポーツに関わる仕事
に就きたいので、運動生理学や体の動かし
方を学んでいきたい」と話し、今後も勉強
とスポーツを両立させていく予定です。

練習の合間の息抜きは、
カラオケです!



山木 里桜さん
Rion Yamaki

文教大学附属高等学校3年

好成績をおさめた大会

全日本カヌーマラソン 選手権大会 1 位

2024年5月に京都で開催された全日本選手権は、
同年9月にクロアチアで開催されたカヌーマラソン世
界選手権大会の日本代表選手選考会を兼ねた大
会。山木さんは見事1位を獲得し、代表となるための
基準記録も突破。

カヌー競技



CROSS TALKS

学生の生きる力や個性を育てる文教大学に

文教大学の卒業生である真藤順丈さんの直木賞受賞作『宝島』が映画化、2025年9月に公開となります。それに先立ち、真藤さんと恩師である文学部の寺澤浩樹教授、宮武利江学長が鼎談し、文教大学について大いに語り合いました。

彼の小説は大学時代から面白かった

——大学時代の真藤さんと寺澤先生とのエピソードを教えてください。

寺澤 真藤くんが1・2年生の時は、彼が選択した授業の担当教員として、3・4年生の時は私のゼミ生だったので、結局、彼の在学時はずっと彼のことを見ていたことになるのかな。

真藤 卒論は、太宰（治）…じゃなくて三島（由紀夫）でしたね。

寺澤 今サラッと「卒論で三島を書いた」なんて言ってますけど、彼は最初、卒論を「創作にしたい」って言ってきたんですよ。もちろん「ダメだ、卒論は研究なんだから」と答えました。彼はそれ以前にも「小説を書いたから読んでください」って僕のところに持ってきていたんですよ。近現代文学を専攻しようとする学生の中には、小説を書いて「読んでください」と言う学生が時々いますが、後にも先にも、彼の作品は突出して良くできていましたね。

真藤 なんでそんなに先生に作品を見てもらったりしていたのか、理由をはっきり覚えてないんですけど（笑）。あと僕は映画が好きで、大学での思い出といえば、映画の撮影をしたことでしょうか。その作品も先生のところに持っていきましたね。大学生の頃って承認欲求の塊じゃないですか。それを先生は懐深く受け止めてくれた気がします。だから先生に作品を持っていったんでしょうね。僕が書いた小説をゼミの他の子たちに回して読ませて、その感想を添えて返してくれた時は、本当にうれしかったのを覚えています。

寺澤 やっぱ小説が面白かったから、そうしたんだよね。そこまでしたくなるような小説だったんだよ。

人と繋がり、何かを生み出しやすい大学

——真藤さんを育てた文教大学は、どんな大学だと言えるでしょうか。

宮武 本学の建学の精神は「人間愛」ですが、どんな人も、その人として尊重して温かく慈しむ、という教育をモットーとしています。お二人の関係を言うと、それが実践されていて、だからこれほどの近さみたいなものが生まれたのかなと思います。

寺澤 大学の教員から学生一人一人に口を出したりはしません。でも学生の方から相談などに来れば、おのずと近くなっていくものですが、それだけではなく、文教大学のキャンパスには「人を大事に育てたい」という空気が漂っているように感じます。

宮武 大学では、いろんな人と会ってほしいですし、なおかつ授業を通じてもっと広い世界やさまざまな考え方に触れてもらいたい。社会に出る前に、大学という守られた世界の中でいろんな体験をさせてあげることが、大学の役割としては大きいのではないかと考えています。

真藤 やっぱ大学時代には、人生のこの時期にしかできない人との出会いや経験があると思います。

寺澤 コロナ禍で人と交われなくなった時期がありましたが、もし彼がそんな中であって、大学で人と交わったり、小説を書いたり、映画を作ったりすることがなかったら、真藤順丈という作家も『宝島』という作品も生まれなかったかもしれないですね。だから逆に言えば、学生は多くの他人がいるところに出てきて、できるだけ密になって掻き回されれば掻き回されるほど、活気が出て、何か生まれてくるものがある。文教大

学はそんなことが起こりやすい大学だと思います。

生きる力を備えた「強み」を学生に

——今後、文教大学はどんなことを学生に提供する大学になっていくのでしょうか。

宮武 文教はもともと個を大事にするスタンス。少子高齢化がさらに進む中で、もっと個々の学生に手をかけ、一人一人の能力を引き上げて、それぞれに突出した能力を持つ人を世に送り出すことができる大学になればと思っています。

寺澤 学生は将来何者になるかわからないし、何を生むかもわからないので、可能性の芽を潰さないように学生たちと接していきたいと思います。

真藤 大学で、仲間であるとか体験なりをたくさん自分の中に蓄積していることが大事。大学を出た後って、大概みんなゴコゴコにされるんですよ。僕もそうでした。でもたくさん本を読んで、小説を書いて、映画を撮って、日本文学を専門的に学んだことが、自分の下地というか、礎になりました。この大学での4年間がなかったら物書きにはなっていなかったと思います。社会でゴコゴコにされた時に、「それでも自分には文章がある、書けよいんだ」と思うことができた。最後に頼れる自分の強みみたいなものを文教大学で見つけられたんだと断言できます。

寺澤 生きていく力をもった強みだね。

宮武 学生たちみんなにそうあってほしいですし、強みを育ててあげたい、そう願っています。

真藤順丈さん Junjyou Shindou

【現職】作家

2001年文教大学文学部

日本語日本文学科卒業

2008年『地図男』で第3回ダ・ヴィン

チ文学賞大賞を受賞しデビュー。2019

年『宝島』で直木賞受賞

真藤くんが大学時代に書いた小説を単行本にしてほしいな

寺澤 浩樹教授 Hiroki Terasawa

【現職】文教大学文学部
日本語日本文学科教授

1992年4月に文教大学に着任し、2017年4月から2025年3月まで学長補佐を務める。専門は日本近代文芸。博士（文学）

学生が本当にやりたいことを
見つけられるようにしたいですね

宮武 利江学長 Toshie Miyatake

【現職】文教大学 学長

2002年4月に文教大学に着任し、2015年4月から2023年3月まで文学部長を務める。2025年4月より文教大学第14代学長

先生が作品を認めてくださったから、
今の自分があると思います

聞かせてください！
先生の今

恩師便り

文教大学学園で教壇に立つ先生や、今は一線を退かれた懐かしい先生に近況と文教での思い出を語っていただきました。



歴史・思い出・資料編の3章から成る『文教大学女子短期大学の歩み』（A4判、約200ページ）は、短大の発展のために力を注いだ人たちの記録。表紙には、短大があった当時の旗の台校舎と現在の湘南校舎のイラストが描かれている。



齋藤 貴美子先生 Kimiko Saitou

1960年立正学園女子短期大学家政科へ入学。病院の栄養士を目指していたが、学校側の強いすすめもあり、研究室の助手に。1990年より文教大学女子短期大学健康栄養学科教授、2005年より同学部長。2012年に名誉教授の称号が授与される。定年退職後も4年間、非常勤講師として新設した文教大学健康栄養学部の発展に尽力した。2014年退職。

短大の歴史を記念誌にまとめ、次代へつなげる

文教大学女子短期大学の前身である立正学園女子短期大学の出身であった私は、学生から研究生、助手、教員と半世紀を文教大学学園で過ごしました。その間、約7,000名の学生に授業担当者として教え、自分自身も多くのことを学びました。まさに私の人生は学園での生活が大半を占めたと言っても過言ではなく、たくさんの思い出

とともに、感謝の気持ちでいっぱいです。女子教育の先駆けとして発足した短期大学が発展していく間には、教員、職員の方たちの並ならぬ努力がありました。短大閉学を聞いた時、短大の記録を残さなければならぬと強く思ったのは、そうした人たちが教育にかけてきた思い、努力の結晶を風化させたくなかったからです。その結果

として、記念誌『文教大学女子短期大学の歩み』を形にすることができたことは、望外の喜びでした。過去の資料が入っているダンボールの山を一つずつ開けて資料を探し出し、関係者から聞き取りをして文章化するなど、多くの時間と労力を費やしましたが、文教大学学園の歴史を空白なくつなげることができたと思っています。

五十嵐 彰先生 Akira Igarashi

文教大学教育学部（国語専修）1996年卒業。教育専攻科、上越教育大学大学院を経て、1999年、付属中学校・高等学校の教諭となる。2024年、高等学校教頭に就任。大学時代の恩師、近藤研至先生のような自由闊達で思いやり深い教師を目指す。

明るくオープンな職員室で。日頃から教職員同士、生徒と教員が気軽に話せ、コミュニケーションが円滑にとれる空づくりを心がけている。



自分で選んだ道をとことん進んでほしい

教師になって26年目。ずっと若手のつもりで駆け抜けてきましたが、気づいたら昨年、教頭席に座っていたというのが正直な気持ちです。現在も高校の教壇に立っています。

「どう伝えるか」は、教師として一生のテーマです。生徒たちの反応を見て、いまだに「もっとこうすればよかった」と思うこ

とがあり、授業構成の難しさ、そして面白さも感じています。文教大学教育学部で受けた緊張感あふれる少人数授業が、今につながる糧になっています。

教師としてずっと大切にしているのは、生徒の話をよく聞くこと。一人ひとりが何を感じて、どう考えているのか。穏やかに耳を傾けることで、さまざまな話を引

き出したいと思っています。生徒たちは進路に、人生に、迷うことも多いでしょう。しかし、自分で考え、選択することが大切です。もちろん先生方や保護者の方のアドバイスや情報を参考にすることも重要ですが、最後は「自分で決める」。自分を信じ、選んだ道を突き進んでほしいと願っています。

EVENT情報



BUNKYO校友フェスタ2025

日程・2025年10月18日(土) 10:30～16:15
場所・文教大学 東京あだちキャンパス

2025年度も校友のための交流イベント「BUNKYO校友フェスタ」を実施します 吉田兄弟コンサート-三味線だけの世界-

今年度は世界で活躍する唯一無二の津軽三味線アーティスト「吉田兄弟」のお二人をお迎えして、皆さまを「三味線だけの世界」へご案内します！三味線の第一人者であるお二方が奏で



文教大学 東京あだちキャンパス

る約70分のステージにご期待ください！
※演奏開始後の途中入室・退室は原則お断りしております。



吉田兄弟

2024年、デビュー25周年を迎えた津軽三味線の第一人者、吉田兄弟。北海道登別市出身。ともに5歳より三味線を習い始め、1990年より津軽三味線奏者初代佐々木孝に師事。津軽三味線の全国大会で頭角を現し、1999年アルバム「いぶき」でメジャーデビュー。邦楽界では異例のヒットを記録し、2003年の全米デビュー以降、世界各国での演奏活動や国内外のアーティストとのコラボレーションも積極的に行っており、日本伝統芸能の枠を超え、幅広い活躍が期待されている。

詳細は、別紙の
チラシでご確認ください!!



校友によるパフォーマンスとトーク



栃木県で中学校教員として教壇に立ちながら、社会貢献活動として音楽活動をされているシンガーソングライターのMomokaさん(教育学部卒業生)が、ご自身のオリジナル曲に加え、皆さま馴染みの曲を歌い上げます！



物産展を開催

今年度も在学生・卒業生など文教大学学園の校友が関わっているモノの紹介および販売を行います。P4でご紹介した文教大学人間科学部卒業の池上峻さんが運営に携わっている「ココ・ファーム・ワイナリー」の100%日本産葡萄ワインや、文学部卒業生の水谷英晴さんが営む「晴れ晴れ珈琲」と学園が共同開発したドリップコーヒー「BUNKO Coffee 『文教ブレンド』」の販売が決定しております。現在、出展者様を大募集中です！こちらの二次元バーコードから、ぜひご連絡ください！皆さまのご連絡をお待ちしております。

まずはお問い合わせください！



ココ・ファーム・ワイナリー

出展者
大募集！



2024年度「BUNKYO校友フェスタ2024」を開催しました

2024年10月19日(土)に開催した校友フェスタには、590名の方にご参加いただきました。「個展」コーナーでは、文教大学卒業生で漫画家の須賀達郎さん、イラストレーターの唐橋充さん、谷口佳江さんの作品などを展示。「校友によるパフォーマンスとトーク」では、津軽三味線やアカペラの演奏を披露。また、落語家 春風亭小朝師匠と若手演芸家の方々をお迎えした「文教寄席-落語の世界へご案内-」では太鼓あり、水戸大神楽あり、そして落語ありの盛りだくさんの90分間で、会場は笑いの渦に包まれました。



個展



春風亭小朝師匠による
落語



文教大学学園創立100周年 記念作品募集

昨年度から2027年に迎える学園創立100周年に向けて記念作品募集を行っています。テーマは創立100周年を迎える文教大学学園での「思い出」や「これからの学園に対する想い」です。部門は「作曲部門」「イラスト部門」「写真部門」「グッズ企画部門」「エッセイ部門」の5部門！昨年度からたくさんのご応募をいただいておりますが、募集期間を9月30日まで延長することとなりました！詳しくはこちらの二次元バーコードから詳細をご確認ください。

募集要項は
こちら



文教大学学園創立100周年記念 ロゴマークが決定しました

創立100周年記念ロゴマークの作品募集では、計433点の応募がありました。厳正なる審査の結果、以下の通り受賞作品が決定し、3月には表彰式も行われました。

最優秀賞

文教大学国際学部卒業生 藤掛 裕美さん

今号の表紙絵デザインも
担当されています！



優秀賞(3点)

文教大学情報学部3年生
GUO ZIHUAさん



文教大学情報学部卒業生
宮崎 裕希さん



付属小学校6年生
長谷 怜奈さん



特別賞(7点)

文教大学人間科学部1年生
彼ノ矢 美妃さん



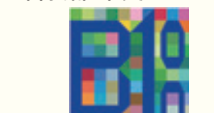
文教大学教育学部3年生
奥平 英恵さん



文教大学情報学部3年生
井上 朋香さん



付属小学校1年生
曾我部 菜吏さん



文教大学情報学部教員
村井 睦さん



*所属は2025年3月時点



文教大学は映画「宝島」の製作委員会に参加しています

文教大学文学部日本語日本文学科学卒業生の真藤順丈さんの小説「宝島」(第160回直木賞受賞)が、東映とソニー・ピクチャーズによる共同配給のもと実写映画化されることになり、文教大学は製作委員会に参加しています。

映画は、2025年9月19日(金)より全国公開となります。舞台はくアメリカだった時代>の沖縄。妻夫木聡さん、広瀬すずさん、窪田正孝さん、永山瑛太さんが演じる4人の幼馴染の半生を通して、戦後沖縄の史実に記されてこなかった真実を伝える衝撃作です！



第160回直木賞受賞作・真藤順丈
「宝島」上・下(講談社文庫)



©真藤順丈／講談社 ©2025「宝島」製作委員会

『あやなりーBunkyo Prideー』 Webサイトもお楽しみください

<https://www.bunkyo-ayanari.jp/>

取材時のオフショットなど本誌に掲載できなかった情報も盛り込み、学園の「今」や文教人の活躍を、見やすく・わかりやすくお届けしています。過去の『あやなりBP』もこちらからご覧いただけます！

本誌に掲載できなかった
記事も読めます！



1年を振り返る／ CAMPUS REPORT

この1年も各キャンパスでさまざまなできごとがありました。園児、児童、生徒、学生たちはそれぞれの学び舎で経験を重ね大きく成長していています。在校生が過ごした1年の足あとをたどりま。



文教大学付属幼稚園

節分まめまき会 ～ 節分 ～

2月3日(月)『節分まめまき会』を実施しました。園長先生より、鬼が嫌いな『柊鰯(ひいらぎいわし)』のお話を聞いた後、玄関に飾ることにしましたが、幼稚園に鬼が入ってきてしまったようです…。年男役の松組(年長児)が、豆をまいて、鬼退治!でも実は、赤鬼は幼稚園のお友達と仲よくなって一緒に遊びたかったようです。ダンスにお相撲対決、羽根付きならぬ風船付き!みんなで楽しく遊ぶことができました。

文教大学付属幼稚園

おみせやさんごっこ ～文教商店街の開店です!～

12月3日(火)、この日は文教商店街の開店の日です!おすすめのすてきな品物がたくさん並んでいます。お買い物を楽しんでください!ご家庭から提供していただいた廃材が、なんとということでしょう!ワクワクする品物に変身しています。これまでいろいろな品物を作ってきました。いよいよ開店です!



文教大学付属小学校

花まつり

4月8日(火)、お釈迦様の誕生を祝う花まつりが行われました。校長先生からお釈迦様がお生まれになった時の話や、教えについての話を聞きました。その後は、一人ひとりがお釈迦様に甘茶をかける「灌仏」をして、お祝いをしました。お釈迦様の「天上天下 唯我独尊」の教えのもと、自分というかけがえのない存在について、あらためて深く考える良い機会になったと思います。



文教大学付属小学校

香港の小学生との交流

4月14日(月)、香港の順徳聯誼總會何日東小学から、児童約80名と先生方が本校を訪問され、国際交流のひとつを楽しみました。挨拶のあと、それぞれが歌やダンスなどのパフォーマンスを披露しました。交流の最後には記念のプレゼント交換を行い、その後は第二運動場に出て、一輪車や鉄棒、竹馬などを使って一緒に遊びました。本校の児童も英語や中国語を使って積極的に話しかける姿が見られ、国を超えた心のつながりを感じる場面がたくさん見られました。このような国際交流を通して、子どもたちが世界に目を向け、多様性を尊重する心を育てていくきっかけになればと願っています。



文教大学付属中学校・高等学校

探究祭

2025年1月25日(土)、探究祭が行われました。探究祭とは、独自の取り組みである「クリエイティブチャレンジ(CC)」の成果発表の場です。クリエイティブチャレンジでは、生徒たちは大学の学部系統に沿ったグループに分かれ、個人もしくは活動班で探究テーマを設定し、1年間かけてその内容を探究してきました。自分が興味を持っている分野について、課題を発見するところから始まり、今そしてこれからの自分たちに何ができるかを真剣に考えて取り組んできました。「こんなものがあたらいいな」を実際に形にするグループや、現代社会が抱える問題を解決するために活動をしている団体の話を聞きに行ったグループなど、その取り組みは多種多様でした。



文教大学

不要なアクリル板を再利用した サステナブルな大学グッズを制作

2024年度卒業式にて、卒業生に対し、コロナ禍に学内で使用していた不要なアクリルパーテーションをアップサイクルした「アクリルしおり」を贈りました。学生生活の多くを、コロナ禍による制約の中で過ごした2024年度卒業生。当時を象徴する素材をアップサイクルすることで、コロナ禍の学生生活を前向きな思い出として刻んでほしいとの願いを込めています。学生には、しおりに込める想いや未来へのメッセージを記したメッセージカードも合わせてお渡ししました。グッズ制作には、本学も登録するあだちSDGsパートナーの登録企業にご協力いただきました。この取り組みが卒業生にとって心に残る思い出となり、SDGsへの関心をさらに深めるきっかけとなることを願っています。



文教大学付属中学校・高等学校

合唱コンクール

2025年2月13日(木)、大田区民ホール・アブリコにて、中学・高校それぞれの合唱コンクールが開催されました。中学の部では、中学1年生から3年生までの12クラスが、高校の部では、高校1・2年生の15クラスが、それぞれ合唱を披露しました。クラスごとに一致団結して練習に励み、本番ではその成果を存分に発揮し、どのクラスも素晴らしいハーモニーを会場に響かせていました。今のクラスで参加する行事は今回が最後となりましたが、これからもさまざまな学校行事を通して成長し、多くの思い出を心に刻んでほしいと思います。



文教大学

藍蓼祭、聳塔祭、 華叉祭を開催

2024年10月26日(土)～27日(日)に「第40回聳塔祭」(湘南キャンパス)、2024年11月2日(土)～4日(月・振休)に「第57回藍蓼祭」(越谷キャンパス)、2024年11月9日(土)～10日(日)に「第4回華叉祭」(東京あだちキャンパス)が開催されました。各キャンパスとも、トークショーやステージ発表などさまざまな企画を実施し、大いに盛り上がりしました。2025年度は以下の日程で実施いたしますので、ぜひご来場ください!

- 越谷キャンパス「第58回藍蓼祭」
2025年11月1日(土)～11月3日(月・祝)
- 湘南キャンパス「第41回聳塔祭」
2025年10月25日(土)～10月26日(日)
- 東京あだちキャンパス「第5回華叉祭」
2025年11月8日(土)～11月9日(日)



入試関連イベント

幼稚園

入園説明会

9/6(土)

10:00～11:30



小学校

学校説明会

9/6(土)

説明会 10:05～
個別相談会 11:40～



中学校・高等学校

学校説明会

9/6(土)

中学校 14:00～15:00
高等学校 10:30～11:30



大学

オープンキャンパス

8/30(土)

湘南キャンパス 11:00～15:00(予定)
東京あだちキャンパス 11:00～15:00(予定)

9/7(日)

越谷キャンパス 11:00～15:00(予定)

9/14(日)



